

C C L

医療と介護の連携へ

現場の課題解決策探る

春採湖畔で行われた集積の設置作業



医療や介護の現場で働く人たちが課題解決に向け本音で話し合った

医師や看護師、社会福祉士らが集まり地域連携や退院支援などについて考える団体

「CCL」(CCL)本音で地域連携のあり方を検討する会(座長・望月誠釧路市中

南部地域包括支援センター社会福祉士)は12日、釧路市立高等看護学院体育館で、3回目となる研修会を開き、これまでの研修会で出された課題への解決策を話し合った。現在の医療や介護の現場では「連携」という課題が取りざたされている。患者が退院し介護施設に入所する場合にも、患者情報の伝達が双方の間でうまくいかず、各分野ごとの役割分担が円滑に進まないなどの状況があり、患者本人や現場で働く人たちの負担が大きくなっているという。この研修会では、実際に各分野の現場で働く人たちが職場での書ききなどを捨て、それぞれの本音をぶつけ合い、地域連携を進めていこうと昨年から行われている。

この日は、釧路管内の病院や介護施設で働く医師や看護師、ケアマネジャーなど150人余りが参加。これまでの研修会でも出された課題に対する解決策の優先度をグループワーク方式で話し合い、すぐにも取り組め効果が高い方策を探った。参加者は、情報共有や信頼関係づくり、役割分担などのテーマで話し合ったが、最終的には、患者が入院している間から、担当者同士で会議や話し合いを行うべき、といった内容の意見が大半を占めた。次回以降の研修会では実際にどう取り組むべきかを話し合うこととしている。(道永竜命)

原国立公園や阿寒国立公園で本格的な捕獲事業導入を目前に、3人ほどの射手では機会が限定され、全頭捕獲に失敗したことなども事例として報告された。知床岬では07年から3年間、猟銃による捕獲を行い4

を薄めさせるなどして実施。餌に誘われてきたエゾシカが多すぎ、3人ほどの射手では機会が限定され、全頭捕獲に失敗したことなども事例として報告された。知床岬では07年から3年間、猟銃による捕獲を行い4

みを体験した。ものづくりを環境に配慮した興味を持ってもらうための2回にたもので、親子ドカーの工作キと太陽電池(つ)を効率よく仲間型を製作したこの手作りのカーは平地はわり、坂道になるしたビー玉が転ギー源を乾電池ようになつてお力を上手に使いが子どもたちのいた。

ふるさとに思い寄せ

20日札幌しらぬか会が総会

【札幌】札幌しらぬかふるさと会(奥山隆会長・会員231人)の「総会」と「ふるさとを語るつどい」が20日午後6時から、札幌市中央区南10のホテルライフォート札幌で開かれる。出席予定者は次の通り(敬

岡田徳正、大西百合子(旧姓谷本)、狩野愛子(旧姓染谷)、菊池篤子、喜島純一、熊澤憲生、工藤みき子、熊澤憲一、櫻井まき子(旧姓桐原)、坂部弘志、鈴木和雄、田川英雄、滝口ひろ子(旧姓浅川)、出口由美子(旧姓森野)、富塚康子(旧姓大塚)、中村正敏、中畑敏夫、中山嘉美、永井一彰、半澤新一、樋口泰久、広沢勝幸、平原明紀、佛田ヒロ(旧姓大和)、前田治雄、松本富美子(旧姓浅野)、峯田

親子で楽しくリッドカー作



仕組みに関心

釧路トヨタ親子工作教室

釧路トヨタ自動車(釧路市鳥取大通6の4)で14日、親子を対象にした工作教室が行われ、参加者が2つ以上の動力を上手に使い分けて走る

【来賓】毛利稔北海道振興代表取締役、石川喜博OEN ON合同酒類北海道営業部長【会員】天野和豊、有川進、浅川美津、荒政光、浅川憲三、青木修司、今井節夫、上田尚道、江崎健二、小川良隆、奥山隆、奥山やす子(旧姓平沼)

【白糠ふるさと会】清水一芳(会長)、對木節路丹頂農協専務、孝夫理事(町長代表取締役)、(町議会副議長